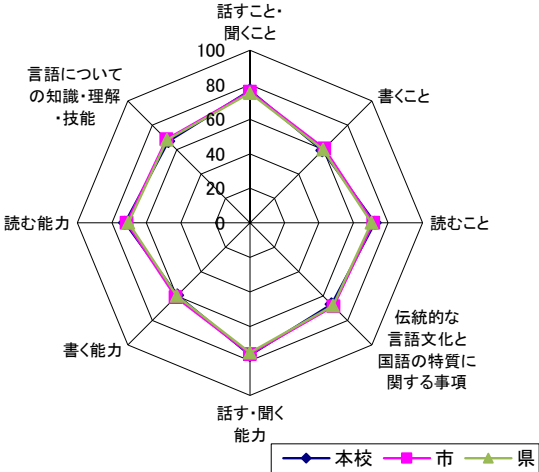


宇都宮市立鬼怒中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	76.7	76.0	75.2
	書くこと	59.4	60.9	59.9
	読むこと	72.4	71.4	70.4
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	66.8	68.5	68.0
観点	話す・聞く能力	76.7	76.0	75.2
	書く能力	59.4	60.9	59.9
	読む能力	72.4	71.4	70.4
	言語についての知識・理解・技能	66.8	68.5	68.0



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均よりやや高い。 ○自分の考えとの共通点と相違点を整理して聞く問題では、正答率が県平均・市平均を上回っている。 ●資料の効果的な活用について考える問題では、正答率が県平均・市平均とほぼ同じである。	・適切な資料を用いて話す授業を多く取り入れることで、資料を効果的に用いながら目的にあった話ができる力を育てる。
書くこと	平均正答率は、市の平均よりやや低い。 ○メモを基に活動報告書にあてはまる言葉を書く問題では、正答率が県平均・市平均をやや上回っている。 ●活動報告書の内容に合う資料を選ぶ問題では、正答率が県平均・市平均を下回っている。	・自分の考えを相手に伝えるときに、内容に合った材料を選んで根拠を明らかにして書く学習を継続して行っていく。
読むこと	平均正答率は、市の平均よりやや高い。 ○説明文の内容の理解では、文章の構成や展開について自分の考えをもつ問題において、正答率が県平均・市平均を上回っている。 ●文学作品の内容の理解では、物語の展開や表現について自分の考えをもつ問題において、正答率が低い。	・文学的文章の読解において、物語の展開や表現に注目して考える機会を多く設けることで、自分の考えをもつ力を身に付けさせる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○漢字の読みに関する問題の正答率は、おおむね県平均と同等である。 ●漢字の書きや成り立ち(形声文字)に関する問題の正答率は、県平均・市平均を下回り、知識が定着していないと考えられる。	・小テストを定期的実施し、漢字を書く力や漢字の成り立ちについての知識の定着を図る。